

# 大阪文化の 2009年 大阪文化の行方を語る 灯を守ろう!



武田佐知子 (たけださちこ) 氏  
大阪大学理事・副学長、同大学院文学研究  
科教授・文学博士 (日本古代史)、  
21世紀懐徳堂を推進



田中宰 (たなかおさむ) 氏  
阪神高速道路株式会社代表取締役会長、  
大阪商工会議所ツーリズム振興委員会委員長



萩尾千里 (はぎおせんり) 氏  
関西経済同友会常任幹事、  
株式会社大阪国際会議場代表取締役社長、  
元朝日新聞編集委員

## 集中と選択で文化を再構築

堀井 今や大阪に限らず、関西全域においても財政難のなかで文化事業予算がどんどん縮小される傾向にあり、強い危機感を持っています。大阪においても、あまりにもすべてが損得勘定や経済的価値に収斂させようとしている風潮があり、心配です。大阪ではこれまでも、経済危機がやってくると真っ先に文化や教育を犠牲にしてきた歴史があるからです。江戸時代に生まれた大阪町人の学問塾「懐徳堂」がその例です。明治2年、経済が疲弊し閉鎖を余儀なくされました。しかしやはり、大阪から学問探究の灯を消してはならないと大正5年に「重建懐徳堂」として復興され、現在、大阪大学によって第3次の「21世紀懐徳堂」が興されています。本当は連綿と学統をつなぐべきでした。私は、そうした文化の歴史的連続性こそが、未来に夢を語り紡ぎ、大阪人としての自信や誇りを生み出していくものであると思います。今、大阪・関西の文化

の現状をどう見て、いかなる文化戦略をとるべきなのか。皆様のご意見をお伺いします。

萩尾 世界中でグローバル化が進むなかにあって、都市が発展していくためには共通のルールを上手く使って他都市と共存していくための「普遍化」と、自らの存在感を出すための「個性化」が求められます。しかし大阪の場合、普遍化するばかりで、本来の個性が失われているように思えます。個性化こそは、文化力、つまり感性によってつくられるのです。大阪は1400年の歴史、京都や奈良などの周辺都市と連携してきたポテンシャルをもっているのですから、それらをもっと活かす感性を磨き、文化力を大切にすることが不可欠であると思います。

堀井 田中さんは中之島にお住まいですが、大阪の真ん中での暮らしはいかがですか。

田中 素晴らしいですね。まず夜の過ごし方がとても豊かになり